

# 見学調査報告書

テーマ : 英語で学ぶ日本の伝統芸能  
ゼミ名 : 高見澤 秀幸ゼミ  
調査日 : 2023年6月23日(金)  
調査先 : Discover KABUKI - 外国人のための歌舞伎鑑賞教室@国立劇場  
授業科目名 : 演習 I・II・III・IV  
参加学生数 : 9名(3年)、9名(4年)

## 調査の趣旨(目的)

- ①建築物としての国立劇場の見学: 文化的価値の高い(校倉造を基調にした)現建物の経緯や構造を調べた上で、実際に見学する。
- ②日本の伝統文化に関する英語表現の学習: 専門用語はあるものの、聞いてみて意外と簡単であることを学ぶ。
- ③外国人観劇者との英会話: コミュニケーション力を磨く。

## 調査結果

外国人のための歌舞伎鑑賞教室は、本来、外国人に歌舞伎に親しんでもらうことを目的とした観劇会であるが、日本人学生にとっても学びの機会が豊富にあった。この教室は二部構成になっており、第一部では舞台、演目、所作、衣装、音楽、ナレーションといった歌舞伎を構成する項目についての解説が英語で行われた。伝統芸能に固有の単語が多く出てくるため、日本語で解説するのも難しいところだが、それをシンプルな英語で表現しきってしまうことに驚きと発見があった。第二部では、有名な演目の一幕を鑑賞した。第一部の解説のおかげで細かいところまで意識しながら観ることができ、伝統芸能の奥深さを実感することができた。開演前後や幕間では、一部の学生が外国人との英会話を楽しんだ。ただ、話すきっかけを中々つかめない学生がいたのも事実で、この点は工夫や改善の余地が残された。

建て替えのため、現国立劇場は今秋にも取り壊される予定で、校倉造を模した壮大な建物を見られるのはこれが最後となった。内装も豪華で、日本画の名画や平櫛田中作の六代目菊五郎の巨大な人形を間近に見ることができた。また、国立劇場の舞台が、通常のコンサートホールに比べて横長であるのも新しい発見であった。

今回の歌舞伎鑑賞教室への参加を通じて、外国人と交流するときの心構えが養われた。特に、日本の文化を英語で説明する際にシンプルな表現で事足りることがわかったのは、自信やモチベーションの向上につながった。